

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	タイムこどもデイサービスめろでい			
○保護者評価実施期間	2025年2月17日 ～ 2025年3月4日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2025年2月21日 ～ 2025年3月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・チームで連携して支援を行っています。	・支援前にミーティングの時間を設けて、前日の活動報告や注意点の確認、今日の活動内容の打ち合わせをして情報共有を行っています。 ・月2回のめろでい会議で、情報共有、支援の統一を図っています。	・ミーティングに参加できない人がいた場合でも、グループライン等で情報を共有できるようにしていきます。
2	・月間プログラム、前日の活動スケジュールの詳細を立案して、その日の状態に合わせて活動をしています。	・言葉の音楽療法や集団あそびを主とする日、季節の制作、ダンス、おやつ作りなどの活動を取り入れて、個々の特性を理解して支援しています。	・子ども達からどんなことをやりたいか作りたいか聞いて、自己決定・意見表明を大切にしながら、子どもたち自身が楽しいと思える活動を取り入れていきます。
3	家庭的な雰囲気、幼少期から青年期まであまり変動しない人的環境で過ごす事ができます。	その子の生き立ちや家庭のこと学校のこと、成長の変遷を共有しながら将来を見据えた支援を心がけています。	2ヶ月に一回作業療法士の方の指導を受け、専門的な知識や技能を持って支援していきたいと思っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・被害災害を想定した避難訓練の情報発信について	・各種マニュアルを策定したり、定期的な避難訓練を実施し、保護者との面談時に説明をしていますが、しっかりと伝わっているか不安があります。	・面談や保護者会以外でも、委員会や会議等で話し合い避難訓練を実施していることを手紙にして、情報をお伝えすることができる仕組みづくりに取り組んでいきます。
2	・保護者会等の開催について	・コロナ禍もあり開催できていませんでした。が、去年、今年と年一回のペースで開くことができました。	・いつ頃開催したら良いのか、話し合い、定期的に行えるようにしていきたいと思います。今年は1年間撮りためていた写真や動画をPPTで編集し1つの動画にして鑑賞会をし好評でしたので、今後も中身を工夫していきたいです。
3	・学童や児童館等で地域の子との交流について。	平日は帰りの時間が遅い利用児童も多いため、児童館などに出かける機会がなかなかありませんでした。また、学童との交流は、保護者もあまり望んでいません。公園では、他の子達と遊んだり地域の人と触れ合ったりはしています。	学童等の施設との接点を持つことは難しいと考えています。児童館などの利用回数は増やしていきたいと思います。公園等で他の子どもたちと遊んだり地域の方と交流する機会は今でもありますので、それは増やしていきたいと思います。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		タイムこどもデイサービスめろでい		公表日 2025年3月21日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・室内と室外に分かれて活動する様に工夫している。 ・台所をおやつ部屋として定め、皆と一緒ににおやつを食べられるようにした。	・晴れてるときは、園庭もうまく使うようにしたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	・利用人数マイナス3～4人の配置で行っているが、送迎の関係で重なるときもあるが本部に協力してもらっている。	・緊急時の対応時、不便を感じる。 ・男性スタッフが必要と感じるときもある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	・スロープは無いが手すりに対応している。	・1Fのトイレが狭く、現在はカーテンで仕切りをしているが介助の際、不便を感じる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・おやつを食べる部屋、活動する部屋に分けている。テーブルも必要に応じて畳んでいる。	・個々の利用者の特性を考えて、利用者の個々の活動に合わせた配置を行ってきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・着替えの部屋、一人になりたい時の狭い空間など配置してある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・年度当初に、事業所および職員個人の目標を出し合って、年度末には振り返りを行っている。	・会議等を行っているが、参加人数が少ない時もあり、資料を回覧している。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・アンケートを行い、個々のニーズに答えられるように努めている。	・年度途中での意向調査も行っていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・会議を行い、話に出た各スタッフの意見を基に皆が同じ方向に向くように努めている。	・送迎車に関する課題。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・法人第三者委員がやっていますが、外部評価もやれるようにしていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・毎月の合同会議でミニ研修を、年2～3回は外部講師の全体研修を行っている。また、定期的に専門家の指導を受けている。	・大体の人は参加しているが、他事業所と兼務の人の中には参加できないこともあるので、動画視聴や個別研修も試みている。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。				※3月末までに公表することになっており、現在各ディにてまとめている最中ですので、できあがり次第HPに公表します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・保護者の方と個別に面談をして、それを基に会議で話し合い、計画を作成している。	・子どもと保護者のニーズが異なるときの調整の仕方が難しい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・普段の様子から目標に対して評価し、より良いものを提案できるように努めている。	・全員参加が原則だが、参加できなかった人への報連相の仕組みを考えていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・会議等で共有している。必要に応じて話し合いをしている。	・支援計画書通りにいかない方への支援会議を行い、検証・達成のための支援方法の共有が必要である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・相談支援のものを使用して、確認している。	・今後独自のものを作成していきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・合同デイ会議、めろでい会議でガイドライン、5領域等について研修し、みんなで話し合ったもの個別支援計画に取り入れている。	・「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」については、まだまだ面談等での保護者との調整や学校・医療機関との連携が必要である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・合同デイ会議、めろでい会議で話し合い立案している。	※3月末までにHPに公表します。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・季節の行事やデイ合同行事、長期休みにしかできないプログラム等工夫している。	・長期休暇には普段できない活動、行けない場所への計画等、工夫していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	・個別の療育や集団での創作活動などを取り入れている。	・専門支援の幅を広げ、個別活動を充実させたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・毎日のミーティングで、送迎の役割分担とその日の活動内容、注意すべき点等を共有している。	・長期休みのときの送迎がばらばらになるため、全員が揃うことが難しい日もある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・送迎後、常勤で振り返りを行っている。また、個別活動記録を記入し、内容によってはスタッフとともに検証している。	週2日勤務の方に情報が伝えられるのが遅くなるので、重要なことは早く伝達できるように工夫する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・全体の活動日誌で個別の活動報告書に記録をつけている必要に応じて会議で話し合っている。	・日々の記録は必ず読みサインするように徹底する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・年に2回面談を行っている。支援内容が変更になる際はその都度対応している。	・半年以外でも、必要に応じモニタリングを行っているいきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	・月間プログラム、1日の支援の流れを作成して活動している。	・地域交流の機械の提供がコロナ後少なくてしまったので、多面から考えていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	・型にはめ込むのではなく、どっちにするか、どうしたいかを選んでもらうようにして活動している。	・支援員が「待つ」姿勢が大切である。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・児童発達支援管理責任者が参加している。	・必要に応じて参加したい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・学校や医療機関と連携している。	・学校によっては、踏み込んだ内容までいかないところがある。また、医療機関との連携もまだまだ不十分である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	・特別支援学校との基本的情報共有は、連絡会やメール・電話等で調整できている。	・支援学級の子もいるため、情報の収集はもちろん、職員の情報共有の徹底が課題である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	・法人内事業所とは直接やり取りできている。他は、相談支援事業所を介して行っている。	・お互い情報共有できるようつながりを深めていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	・法人内事業所とは直接やり取りできている。他は、相談支援事業所を介して行っている。	・卒業後の進路先とも、お互い情報共有できるようつながりを深めていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	・相談支援基幹センターとは連携を図って研修を受けたり、助言もいただけるケースがある。	・今後も相談支援基幹センターや発達障害者センター「まほろば」、児童発達支援センターとのつながりを活かしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	・なかなか難しいが、公園で遊ぶ機会はある。	・放課後児童クラブとの接点は、行政の協力も必要と考える。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	・協議会からの連絡があるときは出席している。	・今後も要請があれば参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	・連絡帳、送迎時以外でも面談・電話や訪問等で共通理解を図っている。	・相談支援のモニタリングもうまく活用していきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・研修の案内などをお渡しし、情報の提供は行っている。	・法人、また事業所として、研修会などは開いていないが、ニーズに応じて行っていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	・見学時、契約時に詳しく説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	・契約時や面談時に意向を確認し、個別支援計画に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	・計画を説明しながら同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	・定期的なモニタリングの他、必要があれば機会を作り、情報共有を行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・懇親会を開き、スタッフ、また保護者同士での意見交換の機会を設けている。	・懇親会を行っているが、それ以外にもなか交流の機会を作りたいと思っている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・苦情受付担当者、解決責任者を設け、できる限り迅速に対応するようにしている。	・苦情を言っていたくのはとても有難いので、風通しの良い事業所を目指していきたい。また、丁寧に対応していきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・HPや月に一回の通信を発行し、事業所の様子を公開している。	・今後は、「毎月のプログラム」もHPに掲載していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・契約時に、「個人情報同意書」「通信や展示作品への個人名の掲載の同意書」をいただいている。	・「通信や展示作品への個人名の掲載の同意書」は、契約時のみならず年度当初毎年いただくようにする。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・発語のない利用者には、絵カードや写真、ジェスチャーを使ったりしている。	・外国の保護者な場合、言葉がうまく伝わらないことが多々あり、課題になっている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・毎年『ぼくらのアート展』を開催し、絵画や工作等を通して交流を図ったり、久喜市等のイベントに参加している。コロナ前は、地域交流イベント「X'mas会」に招待していた。	・また以前のように地域交流イベントを開催し、地域の方を招待したい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・マニュアルは全て作成し、訓練も行っている。また、面談時に保護者に「避難場所の確認と経路」「災害時訓練計画」の説明はしている。	・一部のマニュアルに関しては、周知徹底がされてないので、全マニュアル周知していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・業務継続計画（BCP）を策定し、研修・訓練も行っている。	・通信機能が使えないときの判断を考える必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・服薬同意書をいただく。また、てんかん時等の対応の仕方や救命救急講座を実施している。	・予防接種の確認は、今後の課題としたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・アセスメントの中で保護者から詳細をお聞きし対応している。医師の指示書はいただいていない。	・今後は、医師の指示書をいただくことを検討していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全計画書は作成し、研修・訓練を行っている。	・カメラ設置等、防犯対策にも今後は力を入れていきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	・安全計画書をマニュアルファイルに綴じ込み、いつでも閲覧できるように入口に置いている。	・面談時に、保護者に安全計画・取り組みをお話し、連携を得られるようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットは3日以内に提出して、ミーティングやめろでい会議で再発防止について話し合っている。	・ちょっとしたことでも気づいたことは、全員がヒヤリハットや気づきシートに書くよう徹底していきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・ディ合同会議でのミニ研修、外部講師による全体研修、県の動画研修、久喜市の研修等の機会を確保している。	・全体研修への参加率を100%にしたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・めろでい会議→身体拘束適正化委員会 で話し合っ、保護者の同意書をいただき個別支援計画書に記載している。	・身体拘束は最後の手段なので、そうならない支援方法を考えていきたい。